

さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 1 令和4年5月25日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

園庭の木々も生い茂り、木陰が気持ちよい季節になりました。園庭では、汗をかきながら鬼ごっこをしたりチョウを追いかけて走り回る元気な姿が見られます。今年も学期始めから気温の高い日が多く、花組保育室側の「さくらんぼ」は例年よりも早く、連休間に赤い実を実らせました。赤く実った「さくらんぼ」は年長児の星組が力を合わせて収穫し、それを園のみんなで分け合っていました。学年度末には花を咲かせ、春には実をつけて子どもたちを喜ばせてくれている園庭の「さくらんぼ」にちなんで命名した通信「さくらんぼ」です。園での楽しい生活とそこでの育ちを各担任がお伝えします。

今回は進級、新入から園生活に少しずつ慣れてきている子どもたちの様子を、保育者の思いや願いとともにお伝えしようと思います。

幼稚園って楽しいね♪ (花組)



花組全員登園が始まって1ヶ月が経とうとしています。入園当初は、おうちの人と離れる際に涙がでる子どもや、遊んでいる途中でおうちの人に会いたくなって泣く子どももいました。不安な気持ちを受け止めながら、「幼稚園には楽しいことがたくさんあるんだよ」と、遊びながら伝えていきました。また、園生活のやり方も繰り返し丁寧に伝えているところです。

4月、保育者が「水筒を自分の鞆の中に入れますよ。」と帰りの準備の仕方を伝えると、A君が保育者の手を引き「みんなA君と同じ鞆！どれか分からない。」と困った表情。保育者が「そうよね。みんな同じ鞆だから分からなくなるよね。でもね、ここのA君のマークがあるお部屋（ロッカー）にA君のものがあって、鞆もこれがA君のだよ。」と説明しました。納得し嬉しそうに自分の所から鞆を取るA君。私たちが当たり前のように思っていたことも、子どもたちにとっては日々新しい出会いばかりで、不安もあり、楽しみもあり、心も頭、体もフル回転だと思っています。

今では園生活にも慣れ、「先生、僕ね。お母さんに行ったらしゃいしたよ。泣いてないよ。」と誇らしげに言うB君。「先生、帽子を被って早く外においで～」と誘うCちゃん。「もう、(タオルを)半分こ半分こにして鞆になおしたよ～！」と帰りの準備を一人でしたD君。子

どもたちは自分でできるようになった嬉しさを感じながら過ごしています。その姿を私たちも一緒に喜んだり、認めたりしながら日々の成長を感じているところです。

遊びでは、ドレスを着てまごごとをしたり、ダンゴムシのお面をつかって、「ダンゴムシ体操」を踊ったりしています。外では、三輪車を連結させ列車に見立てて遊んだり、砂場で草花を使ってお料理をしたり、砂山をつかって上からじょうろで水をかけ「火山だ～」と山の形が変わっていく楽しさ、跳ね返る水の楽しさなど様々な楽しさと出会って繰り返し遊んでいます。

友達のやっていることにも興味をもち見たり、真似たりする姿も増えてきました。これから園で、友達や様々なものに出会い、やってみよう！楽しい！面白い！という思いを育てて欲しいと思います。(尾川)

ますます元気な風組さん！(風組)



例年だと、進級し2クラスに分かれる風組ですが、今年度の風組は1クラス。進級した子どもたちに、6名の新しい友達が加わり、元気いっぱいの風組です。進級園児は、昨年度から一緒に遊んでいた友達と、風組のドレスを嬉しそうに着ておうちごっこをしたり、昨年度末にしていた宝探しを中庭や裏庭でしたりし、あっという間に風組を自分たちの居場所にしていました。新入園児の6人も、それぞれがやってみたいことをする中で、同じことをして遊んでいる友達と仲良くなり、もうすっかり以前からの友達の様です。

先日、保育者がA君と一緒に新聞紙を丸めて剣をつくらうとしていたところに、「プリンセスのお城に来て。」「一緒にブランコしようよ。」「電車ごっこは？」「虫取りしようよ。」と次々に嬉しいお誘いが舞い込んできました。保育者が、「最初に約束したから、まずA君の剣をつくらうかな。それから…」と話す途中で「えー、なんで。」「早く行こうよ。」と予想通りの反応の子どもたち。それぞれの思いの波に揉まれた保育者が、新聞紙を丸めながら「みんなのしたいことを、先生も全部したいけど、先生の手が2本しかないから困ったよ～。いっぱい手が欲しいよ～」と泣き言を言うと、急に静かになり、なんと3本目の手がそっと伸びてきて一緒に新聞紙を丸めてくれました。B君の優しい手です。大喜びの保育者に「先生は手が2本しかないもんね。」とB君。「これが先生の全力だよね。」とCちゃん。子どもたちの優しい思いに見守られ、A君の剣は無事完成。そして、その場にいたみんなと、プリンセスのお城で食事をして、D君のつくった電車に乗り、最寄りの駅で降りた後、ブランコと虫取りに行きました。

進級・入園当初から、一人ひとりがそれぞれに自分の思いをもっていて、その思いを伝えたいという気持ちにあふれている風組さん。表現方法は、じっと黙って目力で光線を送ったり、思いが膨らんで爆発したり、かわいく甘えたりと様々ですが、思いが表現できるということが素晴らしいことだと思います。日々の生活の中で、それ

ぞれの熱い思いがぶつかることも多いですが、それと同じだけの深い優しい気持ちももっていて、そして、なにより友達と一緒にいることが好きな子どもたちです。その人らしさを表現できて、その人らしさを大切に合える風組になっていけるように支えていきます。(中原)

年長児らしさを発揮する(星組)

星組は進級してすぐに、「生活グループ」をつくりまします。いつも仲良しの友達とでなくても、グループの友達と一緒に活動や生活を進めていってほしいという願いからです。1学期始めのグループでの活動は、大学の附属農場での農場体験でした。大学のバスで移動し、枝豆の種まきと風組の時に植えたジャガイモ畑の草抜きをしました。農場の技官さん(野菜レンジャー)の説明をしっかりと聞き、みんなで作業を進めていきました。作業後は附属農場の竹林でタケノコ掘りをしました。子どもたちは、まだ土から少ししか出ていないタケノコを見つけてはグループの友達と力を合わせて周りを掘ります。十分に掘れると野菜レンジャーさんが確認し、くわで掘り上げてくれます。今年度は時期も良く、全員が1本ずつ持って帰れるほど豊作でした。

星組が年下のクラスを歓迎する会「なかよし会」では、星組からのプレゼントとしてそれぞれが絵を描いたり塗り絵をしたりしてメダルをつくりました。つくりながら「喜んでくれるかな」という声も聞かれました。プレゼントを渡した後も喜んでくれたかが気になって「プレゼントどうですか？」と風組に聞いていました。

4月22日には県庁で行われたこいのぼり掲揚式に星組のみんなも出席しました。大きなこいのぼりを揚げたり、打楽器(カスタネット・鈴)で警察音楽隊と一緒に演奏したり、警察音楽隊の演奏を聞いたりしました。こいのぼり掲揚式に参加した翌週から、星組のみんなも大型こいのぼりづくりを始めました。墨で鱗を描いたりそれぞれの描きたいものをクレヨンで描いたり、タンポを使って色を付けたりして、みんなで継続して取り組みました。出来上がったこいのぼりを星組が園内を回って園のみんなにお披露目し、プール横の掲揚ポールに掲げました。「大きいね。」「泳いだよ。」と自分達で作ったこいのぼりを見上げて喜んでいる姿が誇らしげでした。

普段の遊びの中でも、星組がお店屋(リボン屋)を開いて風組や花組をお客にして楽しませたり、サーキットのコースをつくってお客に招いたり、しっぽ取りに風組を入れて一緒に楽しんだりする姿が見られます。学年やグループで取り組む活動や年下のクラスの友達とのかかわりなどを通じて、楽しみながら年長らしさを発揮しています。(高田)

